

パンタナル通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2022年6月1日 225号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護

第10回パクー稚魚放流式

2022年5月13日 バイア・ネグラ市



パクー稚魚放流行事の報告 滝川哲盤

こんにちは！パクー養殖担当の滝川です。日本は初夏を迎え、徐々に暑さが増す頃かと思えます。ここレダでは日本とは季節が真逆であるため、徐々に気温が下がりつつあり、冬に向かおうとしております。冬と言っても、日本の秋のような過ごしやすさ気候です。今回は、今月（5月）に行われたパクーの放流行事のご報告をさせていただきます。5月13日にプエルト・レダ近隣の「バイア・ネグラ市」において、パクー稚魚の放流行事を行いました。

今回の行事は、バイア・ネグラ市、アスンシオン国立大学、当財団との共催で行い、第一部の式典に始まり、第二部ではレダで孵化、育成した約3400尾の稚魚をパラグアイ川に放流しました。

稚魚放流はバイア・ネグラ市長、来賓の方々の放流から始まり、後に地域住民が参加し、子供から大人まで多くの人が直接パクーの稚魚放流を行い、大盛況で終えることができました。特に子供たちにとっては、設置したプールに数千の稚魚が泳ぐ光景は新鮮で、目を輝かせて食い入るように見つめる姿が印象的でした。私は小学生の時、学校行事の一環でサケの稚魚放流を行いました。今でもその時のことは鮮明に覚えているのですが、そのサケの放流を通して、サケに対する愛着と、自然界の魚を守りたいという意識が小学生ながらに芽生えたことを思い出します。

今回の放流をきっかけに現地の子供たちもそのような意識が少しでも芽生えてくれたらうれしい限りです。パクーの親魚から人工孵化、育成、そして放流種苗までに育てるのは、簡単なことではありませんでした。今回の人工孵化は、4回目の親魚取り上げでやっと成功させることができました。その後も水質の管理に細心の注意を払い、大型の鳥類から稚魚を守るなど苦労しましたが、昨年以上に生存率を向上することができました。そして今回の放流行事につながれたことは、スタッフ一同、何よりもうれしく思います。

私たちは、これまで地域の水産資源を保護し、持続的な利用と自然環境の保全を目指して取り組んできましたが、単に稚魚を放流するだけではなく（次面に続く）



稚魚を入れた1トントank。午前11時、レダ出港。5月12日



稚魚を水揚げし、選別し、船上のタンクに入れる。5月12日朝



パラグアイ共和国の独立記念祝典。5月13日午前8時。



バイア・ネグラに到着。6トントankに稚魚を移す。12日17時30分



ネコ市長

バルブエナ教授

岩澤理事長

バイア・ネグラ市、アスンシオン大学、南北米福地開発財団が共催。



放流式典第一部で祝辞を述べる岩澤春比古理事長。5月13日



放流する



生徒たち

放流式(前面より続く) 昨年私たちがオリンポ市で実施した放流行事のように、地域住民の自然環境保護の意識を高めることも目指しました。このような観点から、今回もまた多くの地域住民が参加したことにより、特に意義深い行事になったと思います。

また、今月中に、今回の一日の行事で放流しきれなかった残りの稚魚を放流し、合計で約7万尾の稚魚をパラグアイ川に放流することを予定しています。

この放流行事をきっかけに、バイア・ネグラ市の市長さんとも親睦を深めることができました。今後は、バイア・ネグラ市における養殖プロジェクトを市と連携しつつ進めたいと強く願っています！

伊達勝見(だてかつみ)氏



1949/09/10 - 2022/05/05

5月5日、レダ基地の主要なスタッフである伊達勝見氏が、病気のため逝去されました。72歳でした。伊達氏はレダ基地において16年間、植樹園の管理をはじめ植樹活動全般に責任を持ち、総務、会計、上水道の水作り、広報などの業務も必要に応じて担当されました。「日陽園便り」はレダの現況を伝える貴重な情報源ですが、伊達氏はこれをほぼ毎週、自発的に作成し続けられました。また、この「パンタール通信」に掲載されてきた写真の数多くが、伊達氏の撮影によるものです。



汗を流した植樹園にて。2021年4月11日撮影

伊達氏は1月末に新型コロナウイルスに感染し、仕事中に倒れました。その時にちょうどレダに居合わせた佐野道准氏によって、レダから陸路ローマ・プラタの病院に連れて行かれました。医師は、即時に入院治療が必要と診断。救急車を手配してアスンシオンのアドベンティスタ病院に搬送されました。伊達氏は集中治療室に入られ、肺に直接酸素を送り込む人工呼吸器が着けられました。アスンシオン事務局の中井重幸・秀子夫妻と、日本から駆けつけてこられた、

かほる夫人と息子の德国さんに励まされながら、動けない体で約3カ月間、闘病生活を続けました。その後、容体が安定したことから、国立病院に転院。人工呼吸器を徐々に外して自力で呼吸する訓練を受けながら、退院の準備も考えるほど希望が生まれてきました。

こうして明るい光が差し始めたところ、4月末になつて容体が急変しました。一時心停止になるなど、重篤な状態が続き、5月5日の夜、敗血症のため息を引き取られました。

葬儀は5月7日、首都アスンシオンの教会で、聖和式として執り行われました。祭壇は天の父母様聖会の世界的リーダーの方々から供えられた、いくつもの花輪で飾られました。格別に親しかった友人、佐野氏、中田実氏、オトマー・グラムル氏などより、伊達氏の表裏のない誠実な人柄、模範的な生活、不屈の信念、25歳の若き日から今日まで、生涯の大部



従業員たちにも慕われていた伊達氏。

分を海外で人々のために尽くし続け、聖人のような人生を生きたことなどが証されました。またレダの岩澤春比古所長からも、真情のあふれる感謝のメッセージが寄せられました。式はズーム中継され、日本語と英語の同時通訳が付き、レダ、日本、世界各国でリモート参列した人々も、伊達氏の生涯を偲び、感動を共有することができました。かほる夫人と德国さんは、5月18日に伊達氏の歩まれたレダの地を訪ね、遺品の整理をし、7月の初めころ、遺灰を携えて帰国されるということです。

島田家庭からの便り

パラグアイ移住活動報告② 新たな決意

「パンタールの自然を守るため、家族でパラグアイに移住したい！」のクラウドファンディング、およびその枠外での支援をしてくださった皆様へ皆様のご支援に心から感謝いたします。南北米福地開発協会の島田賢二です。皆様のご多幸をお祈りしています。

ついにレダ移住を成し遂げました。



男二、女二、男長にて、ラスデテ研修所にて。

職場で通常の仕事も併せて回しつつ、移住の準備を進めました。

そのため、なかなか速度が出ず、最後までバタバタしていましたが、何とか日本の生活をたたくで、出発することができました。

日本からパラグアイへの旅路は、ドイツとブラジルを経由し、1日半かけて行く長旅でしたが、ひたすら子供たちをなだめながら過ごしました。

そして到着したパラグアイの首都、アスンシオンでは、家族全員の永住許可を申請するために、ホテルで1ヶ月弱滞在しました。その期間もいろいろあったのですが、自分の中でとても大きかったのは、決意の変化でした。

パラグアイでは、セマナ・サンタ(聖週間)というカトリックの祭りが国の連休になっていますが、その始まりの日に私も祈りの時間を持つてみました。

「私がレダで担うべき責任は何ですか？」という問いを天に投げかけてみたのです。(四面に続く)

「持続可能な福地建設をめざして」はお休みいたします。

レダ・プロジェクトを展示紹介

西東京書写大会で

5月12日、西東京書写大会が東京都府中市にある「府中の森芸術劇場どりーむホール」で開かれました。これに協賛して、アフリカのセネガルやガーナ、中米のドミニカ共和国などで環境保全運動、教育支援などを行っている8つの諸団体がブースを設置し、その活動を紹介しつつ、義援金を募るための物品販売を行いました。

南北米福地開発協会の東京、北関東総支部の有志も参加しました。南米パラグアイのプエルト・レダで展開している植樹、淡水魚パクーの養殖、学校支援などのプロジェクトを紹介しました。現地でも活動するメンバーによる孵化・養殖の様子を映像で伝えるとともに、パンフレットなどを配布しました。

当会が
出展し
たブース



のキャパやパクーをデザインしたTシャツを用意、現地で作られた装飾品、パンタールの自然を撮った絵はがきなども陳列しました。同大会に参加した人々は多数、関心を寄せていただき、買い求めるとともに、活動に興味を抱かれ、中にはさっそく会員登録された方もいました。

島田家庭からの便り (三面より続く) その問いに対して湧き上がった答えは、「レダ・プロジェクト全体の運営に責任を持つべきだ」という答えでした。

私はこれまで、あまりにも大きいレダ・プロジェクト全体に対して責任を持ちたいと思ったことはありませんでした。自分がやりたいことを中心に行いながら、部分的にレダ・プロジェクトを支えられれば良いと思っていました。だから、半農 半ユーチューバー (YouTuber) で自給自営していけるようにしようという思いになりました。しかし、それではいけない、という思いになったのです。

4月20日、アスンシオンからレダに移ってきました。まずは見習いをしながら、子供たちの面倒を見たいという生活をしています。まとまった時間が取れないので、YouTube動画を作ることもできずにいます。しかし、家庭自給を目指すのではなく、レダ・プロジェクト全体の運営改善に取り組むことが天命だとすれば、YouTubeは諦めようと思いました。前回の報告で、YouTubeチャンネルの登録をお願いしておきながら、始めもせずに止めるのは本当に申し訳ないのですが、ご理解いただければと思います。個人のFacebookやレダ・プロジェクトのFacebookページ・Instagramでは、少しずつ投稿していきますので、フォローください。とはいえ、レダの運営改善のためにできたことは、まだ何もありません。もどかしく思いながら過ごしている日々ですが、次回8月の報告では何か小さな成果でも報告できればと思います。

- 1 島田賢二 Facebook
www.facebook.com/shimaken208
- 2 レダ・プロジェクト Facebookページ
www.facebook.com/ledaproject.jp
- 3 レダ・プロジェクト Instagram
www.instagram.com/leda_project/



1 2 3
ここまでお読みいただきありがとうございます。南北米福地開発協会 島田賢二

一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821

FAX: 044-829-2820

支援金振込口座: ゆうちょ銀行

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

E-メール: office@asd-nsa.com

ホームページ: <https://asd-nsa.com>

Facebook: <https://www.facebook.com/ledaproject.jp/>

会員の皆様へ

会員の皆様には、周囲の方々にレダ・プロジェクトを紹介し、入会の案内をしていただければ幸いです。紹介用のパンフレット (印刷済み)、および入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。



入会申し込みは、左のQRコードから、グーグルフォームでも行えます。パソコンでは、下記のURLにアクセスしてください。

<https://asd-nsa.com/nk/>

レダ・プロジェクト紹介用パンフレットPDF版



紹介用パンフレットは、ネットでも入手いただけます。

スマホなどの端末で、または印刷してクリアファイルに入れてどうぞ。



<https://asd-nsa.com/sk/>